

教職実践演習（高）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、未定

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。
具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】

- I 教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)
自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
 - (1)事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
 - (2)学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
 - (3)最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。
- III 授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
 - (1)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
 - (2)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
 - (3)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)
- IV 生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
 - (1)生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
 - (2)事例研究(不登校といじめ問題等)
 - (3)事例研究(ロールプレイング含む)
- V 児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
 - (1)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (2)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (3)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (4)フィールド学習の振り返りと評価
- VI 総括

【履修上の注意事項】

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

①授業態度（30%）、②ポートフォリオを通しての評価（50%）、外部講師による評価（20%）

【テキスト】

【参考文献】

教職実践演習（養護教諭）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、未定

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力が身についているかどうかの確認を行い、①自らの養護教諭としての実践実習を評価しまとめることができる。
②自らの能力・適性（資質）について、自ら描く養護教諭像と照らし合わせて研鑽すべき課題を述べるができる。

【授業の展開計画】

養護実習の学びを振り返り学校運営についての理解を確認するとともに、学校フィールドで再度児童生徒の理解を深める。学校保健を構成する保健教育・保健管理について、集団指導としての模擬授業、個別指導としての場面指導等の演習を通して実践的指導力を確認する。また課題解決のために組織活動をどのように行っていったらよいかを考える。具体的には下記授業計画のとおり。

I 「教師」に関する研究

自己省察（養護実習自己評価紙を基に）（実習担当者）

II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ

(1) 事例研究（保護者・地域社会との連携・協働について）

(2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ（保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む）

(3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。LD、ADHDをはじめとする特別支援教育に

関する実践の基盤

III 授業研究

模擬授業または現場での授業実施と現職教諭を交えての授業研究会(その1)～(その3)

IV 健康問題への解決支援

個別指導の場面指導(疾病の場面指導)

個別指導の場面指導(生徒指導の場面指導：性の問題)

個別指導の場面指導(健康相談)

V 児童生徒理解

(1) スクールボランティアを活用したフィールド学習(1)～(3)

(4) フィールド学習の振り返りと評価

まとめ・評価

【履修上の注意事項】

これまでの教職に関する学習の総まとめの意味があるので、毎回関連する既習科目を復習し演習に臨むこと。授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。

【評価方法】

講義についてのレポート、演習後の記録、グループワークでの活動、振り返りでの討論等を総合して評価する。

【テキスト】

新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。

【参考文献】

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

養護実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】

①保健室の在り方および養護教諭の果たすべき役割と「養護」の対象である児童生徒の心身、生活の状況、健康問題について実習校の実態に基づいて述べるができる。②保健室に来室する児童生徒に対する中で、健康問題の発見・把握、健康問題の解決、予防のための指導などを適切に行うことができる。③自らが養護教諭になった時の姿（養護教諭増）を描くことができる。

【授業の展開計画】

1. 15日間の実習を行うものとする
2. 実習の全期間を通じて学校教育の目的と、それを実現するための教育計画、教育課程、その他の日常教育活動及び、学校運営機構とその機能について理解を深めるとともに、学校教育のあらゆる場における養護教諭の活動について必要な事項を習得する。
3. 実習校における実習は、主に「講義」「観察」「参加」「実習」という方法で行われる。

【履修上の注意事項】

- ・実習に当たっては1単位の事前事後指導を受けること（養護教諭に必要な資質としての救急処置演習を含む）
- ・履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるのでよく確認をすること
- ・実習校の計画に基づき実習を行なうこと
- ・実習の事前学習を行うこと（学校組織、子どもの発育・発達、養護活動など）また、実習後には振り返りレポートを書くこと。

【評価方法】

実習校における評価（70%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（出席、授業参加等）、事前事後指導におけるレポートによる評価（20%）
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

養護実習の手引き及び配布資料

【参考文献】

適宜紹介する